

平成 30 年度 特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター

事業報告書

■ 施設名

特別養護老人ホーム 白朋苑

■ 事業報告

以下、事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

【大岡地区】

・連合町内会と地区社会福祉協議会をつなげるための連絡協議会が発足し、“隣近所を大切にしよう”のスローガンの元、地区全体での交流行事が積極的に行われている。これまで個別の課題に対する取組みや活動は行われていなかったが、今年度地域からちょこっとボランティアのニーズが挙がり、地区社協・民生委員・区社協・包括にて検討会を立ち上げニーズ調査等の検討を行なっている。地区内の主だった活動を通して支援者が固定化されている印象がある。

・個別ケースについて、問題が比較的大きくなってから相談が挙がってくるため、地域福祉保健関係者や民間企業を含めた高齢者見守りネットワークについて検討を行なっている。

・藤の木町内会は単位町内会で独自に活動しており、町内会内での連携、活動が活発に行われている。

【別所地区】

・地区の大半が丘陵地であるため、高齢者や障害者の外出が困難になりやすい傾向がある。

・ボランティアグループ（スマイルサポート別所）はボランティア・利用者とも増加傾向にあり安定した活動が行われている。今後も継続に向けた広報等の後方支援を行っていく。

【包括エリア全体】

・地域ケアプラザや地区センターがなく、町内会館の数も少ないため、地域住民が集える場所が限られているが、新たな拠点となり得る場所について関係者間で検討を始めている。

・地域ニーズの調査・把握が十分に行えていない。

・支援が必要だが生活実態が見えにくい高齢者に対する支援が十分に行われていない。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- ・ 包括のパンフレットに” 高齢者や障害者、子ども、あらゆる方々のご相談窓口になります”と記載し、幅広い分野の相談窓口となっていることを周知した。また、貸館スペースには障害者や子育てに関するチラシを配架し、貸館を利用する子育て中の方や障害者のご家族へ情報提供した。
- ・ 介護保険に関する相談だけでなく、外出の場や健康づくり、ちょこっとボランティアに関する相談もあることから、元気づくりステーションや介護予防教室、サロン、ちょこっとボランティアのチラシは取り揃え、相談があった際に情報提供している。民間企業（イトーヨーカドー横浜別所店）より”安心して買い物を楽しんでいただける店作り”の一環として従業員向けに認知症サポーター養成講座を行いたいとの依頼があり、キャラバンメイトと共に開催した。
- ・ 窓口だけでなく、自主事業・地域ケア会議・地域での会議やイベント等で身近な相談窓口である事を周知した。

(2) 各事業の連携

- ・ 地域の各種会議や食事会等の集まり、各職種が行う事業において得られた相談については、包括内で情報共有を行い、より専門的な対応が必要である場合には生活支援コーディネーターを含めた四職種が分担して対応にあたった。
- ・ 包括事業や地域の会議の中でちょこっとボランティアに関するニーズを把握し、包括内で情報共有・検討をした後、地区社協や民生委員、区社協、生活支援コーディネーターが検討委員会を立ち上げ、次年度立ち上げに向けた検討を行なった。
- ・ 窓口だけでなく、地域の各種会議や食事会等の集まり、各職種が行う事業においても包括のパンフレットや広報紙を配布し、包括の機能や役割について周知した。その場で相談された内容については包括内で情報共有を行なった。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・ 加配職員が計3ヶ月半不在であったが、その間は職員相互で連携を図り、特に支障なく包括業務を遂行できた。
- ・ 毎月の施設内部研修の他、各職種・各個人に合わせた外部研修も取り入れ、より専門性を高められるよう技術・能力の向上を図った。また、研修参加した際は研修報告書を作成し、部署内で情報共有を図った。
- ・ 居宅介護支援事業者等を紹介する際にはハートページにより情報提供し、ご本人・ご家族に事業者を選んでいただいた。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 民生委員児童委員協議会や定期訪問事業の定例会等地域関係団体の会合に出席し、情報共有や情報交換を通じて顔の見える関係を作っている。また、老人会の会合や地域の食事会、防災訓練、地域の祭りなどのイベントにも参加し、幅広いネットワーク構築に努めた。大岡地区連絡協議会では委員として健康福祉まつり、交通安全教室、音楽祭の企画・運営を担い、日頃から地域関係者とのネットワーク構築に努めた。
- ・ 小規模多機能居宅介護、グループホーム、地域密着型通所介護等の運営推進会議、定期巡回随時対応訪問介護看護の介護医療連携推進会議に参加し、地域のサービス機関とのネットワーク構築を図った。
- ・ 地域福祉保健関係団体および地域の民間企業と共に高齢者の見守りについて検討し、包括エリア内における見守りネットワークの構築を図った。

(5) 区行政との協働

第3期南区地域福祉保健計画の推進については以下のように取り組んだ。

・重点目標1”日ごろから声を掛け合い、つながり・支え合いの関係を築こう”に対し、地域住民対象の認知症サポーター養成講座を開催した。3回で延べ59名のサポーターを養成し、認知症になっても安心して住み続けられる地域作りを推進した。また、地域ケア会議では、”高齢者の見守り”について、昨年度に引き続き地域の福祉保健関係者だけでなく、民間事業者にも参加していただき、地域での見守りネットワーク構築に向けた検討を行なった。

・重点目標2”誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう”に対し、当施設内の貸館スペース[みどりの家、オレンジハウス]を地域住民の身近な参加の場として提供した。また、元気づくりステーションや介護予防サロンの開催・後方支援を通して、地域住民の活躍出来る機会と身近な参加の場を提供した。

・重点目標3”日常の情報共有を進め、災害時にも安心できる備えをしよう”に対し、エリア内の防災訓練に参加し、災害への意識を高めるための普及啓発を行った。

・重点目標4”身近な活動を通して健康づくりを進めよう”に対し、元気づくりステーションや介護予防サロン等の開催・後方支援を行った。自主化を行なった元気づくりステーションについては、安定して運営ができるよう後方支援を行なった。また、ホームページや広報紙を通して、身近な場所での健康づくりについて積極的に周知を行った。

2 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

・地域包括と生活支援コーディネーターの4職種が相互に連携するため、日頃から定期的な会議や報告・連絡・相談を行った。

・既存の地域活動を生活支援コーディネーターのブログや地域包括支援センターの広報誌やチラシの情報提供を見て、ボランティア活動やサロンに見学に来られ継続した参加に繋がった。

・サロン活動の担い手が高齢者のため、助成金申請書類の作成に関する補助や地域での勧誘等により参加者も増え、安定した継続が出来ている。また新たな地域活動も視野にいれ地域資源を模索している。高齢者が自分らしく地域で生活できるよう、様々な方向から継続的な支援を行った。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

・各町内会館・コミュニティハウスで開催されている老人会やサロン活動・サークル活動のほか、独自で開催しているサークル活動に訪問し、地域のニーズ把握に努めた結果、新たなボランティアの発掘に繋がった。

・これまで生活支援の活動がなかった大岡地区に対し「ちょこっとボランティア」事業の立ち上げに向け、区社協・地域包括・生活支援コーディネーターで継続的に支援を行った。

・地域のサロンや自主サークルの活動を調査し、インフォーマルサービスとして情報を整理し、ケアマネジャーや地域住民へ周知した。情報は都度更新した。

(3) 連携・協議の場

- ・大岡地区連絡協議会、スマイルサポート別所、民児協等地域の会合に参加し、地域が目指す方向性の把握・共有に努めた。
- ・大岡地区の「ちょこっとボランティア」事業立ち上げに向け、計8回協議体として検討を行った。近隣で活動を行なっている「スマイルサポート別所」および「支え合いグループすみれ」への繋ぎを行ない、定例会の見学や活動内容に関する問い合わせ等により円滑な協議が行なえた。
- ・別所地区では普門院を地域の災害時の避難場所及び防災拠点としての活用が出来ないか、普門院住職・地区社協会長・連合町内会会長・別所四丁目町内会会長・民児協会会長・生活支援コーディネーター（六ツ川地域ケアプラザも含む）で継続した検討を行った。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・把握された地域課題は定例カンファレンスや地域ケア会議の場で情報共有および対応策の検討を行った。
- ・「大岡・別所地区のボランティア交流会」を行い、担い手・ボランティアの募集方法等を話し合った。今後も、交流会は年2回開催し意見交換・情報交換等を継続的に行っていく。

3 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- ・昨年度開催した地域ケア会議において、地域の福祉保健関係者だけでなく、包括エリアにある行政機関[消防、警察]、民間事業者[配食業者、新聞販売店、コンビニ、宅配事業者、郵便局]にも参加していただき、高齢者の見守りについて情報共有・検討を行なったことで、各所との相談や連携が行える体制は構築出来た。
- ・大岡地区、別所地区、藤ノ木地区、それぞれの民生委員児童委員協議会の定例会へ出席して情報提供・共有を図っている。大岡地区連絡協議会主催の健康福祉祭りでは車椅子体験コーナーを設けて福祉への普及啓発を行った。また、福祉教育の一環として藤ノ木小学校の生徒を対象として車椅子体験授業を開催。児童分野に対しても普及啓発を行った。
- ・包括エリアにおける高齢者の見守りネットワーク構築のため、今年度開催した地域ケア会議において、地域で業務にあたる新聞販売店やスーパー、宅配事業者にも参加していただき、地域の高齢者の実情について情報提供を行なった他、課題の整理・共有を行なった。それ以外では、民生委員児童委員を中心に個別のケースで必要だと思われる内容について共有を図る事で、同様のケースに対して円滑に対応できるよう工夫した。
- ・大岡地域ケアプラザと共催で、包括エリアの境界線付近の民生委員を集めて情報交換を実施。お互いが顔見知りになる事で、ネットワークの基盤が構築され、エリアを跨いでいるケースでも情報共有等がスムーズに行えるようになった。

②実態把握

- ・民生委員児童委員協議会や各種地域の関係団体の会合へ出席し、地域の高齢者をはじめとする要援護者についての情報収集を継続して行なった。
- ・大岡地区でのちょこっとボランティア立ち上げに際し、一人暮らし高齢者や民生委員、老人会等にアンケート調査を実施しニーズの把握を行なった。
- ・個別相談の分析に至ってはいないが、相談の中で挙がっているニーズについては一部抽出し地域ケア会議等で検討している。また、老人会等の集まりに参加した際には困り事が無いか声を掛け、情報収集を心掛けた。

③総合相談支援

- ・介護保険のみならず日常生活課題も含め様々な相談を受け付けている。相談の内容によっては時間を掛けての傾聴や訪問する等して対応している。介護保険で対応出来ない部分の支援についての相談が挙がっており、ちょこっとボランティア立ち上げの支援を生活支援コーディネーターが中心となって行った。
- ・相談を受け付けた担当が状況に応じて情報提供を行っている。利用の希望があった場合には該当団体等に問い合わせを行った後、事業や制度に繋がるようバックアップを行っている。また、相談を受け付けた後も必要時に各職種で併せて提供が可能な情報についても検討した。
- ・支援が必要であると思われるが、本人拒否でサービスに結び付かないケースに於いてはインフォーマルサービスから参加を促し、徐々に本人との関係性を構築するよう取り組んだ。最終的に時間は要したが介護保険や成年後見制度の利用までつなぐことが出来た。継続的なフォローが必要なケースについては、必要性を検討した上で対応した。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・消費者被害に遭ったと思われる相談では、速やかに相談者から状況確認を行い、内容に応じて消費生活総合センターへ連携を図り対応策を検討した。
- ・成年後見サポートネットを開催し、関係機関との連携を図った事で、権利擁護に関する個別の相談ケースでは連携が図れていた事で、速やかに支援を導入する事ができた。
- ・町内会の役員会（約40名）を対象として成年後見制度についてのミニ講座を実施し、普及啓発を行った。高齢者だけではなく若い世代の方も参加されていた。
- ・成年後見制度申立て支援では、これまで本人と長い時間を掛けて関係性を構築してきた事で、法定後見の申立てに繋がり課題が解決したケースが2件あった。その他、必要に応じて任意後見制度利用に繋げたケースもあった。

②高齢者虐待への対応

- ・民生委員を対象に高齢者虐待防止普及啓発講座を実施。また、六ツ川地域ケアプラザと共催で自法人の事業所を対象として高齢者虐待防止普及啓発講座を実施した。
- ・介護者サロンを毎月開催し、介護者のストレス軽減やリフレッシュ等の養護者支援の面から虐待防止を図った。
- ・虐待ケースでは速やかに区役所と連携を図り、状況確認や支援方針の検討を行った。継続的に関わりが必要なケースでは関係者間で連絡を取り合い、虐待防止につながるよう支援を行った。

③認知症

- ・認知症サポーター養成講座は、イトーヨーカドー横浜別所店従業員向けに7回延べ123名、大岡地区連絡協議会向けに1回21名、別所町友会向けに1回23名、大岡地区社会福祉協議会向けに1回27名、白朋苑特養職員向けに1回20名の参加があった。また、南区老人クラブ連合会会員向けに認知症サポーターステップアップ講座の依頼があり、1回360名に対して実施した。なお、包括エリア内であるイトーヨーカドー別所店と共催し、職員向けに開催することで、行き慣れた場所で安心して買物が出来るよう支援体制の強化を図った。
- ・認知症サポーター養成講座の開催により、地域住民だけでなく、地域の店舗に対しても普及啓発を行うことで支援体制づくりに取り組んだ。
- ・にっこりカフェ[認知症カフェ]がH30年4月より自主化。包括は後方支援として関わりを継続している。サービスに繋がっていない認知症の方が気軽に参加出来る居場所として機能している。介護者のつどいは毎月開催しており、参加者は1～3名と少ないが当事者同士が同じ目線で話が出来ること好評であった。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・居宅介護支援事業所への訪問の他、ケアマネジャー向け勉強会「ケアマネホームルーム」を通して、ケアマネジャーのニーズの把握に努めた。
- ・包括エリア内のインフォーマルサービスを一覧にまとめ、エリア内の事業所や新任ケアマネジャー実習参加者等に適宜情報提供した。
- ・地域の老人会や町内会の会合、高齢者食事会等へ出席し、介護保険制度や介護保険サービス、ケアマネジャーの役割等について解説した。
- ・H31.2に包括版地域ケア会議を開催し、福祉保健従事者、地域の福祉保健関係者だけでなく、エリアの民間事業者も含めて”高齢者の見守り”について情報交換・検討を行った。
- ・包括協力医と連携し、地域住民向けの医療講演会の開催、包括広報紙への医療コラム掲載を行ない、地域住民へ医療情報の提供を行なった。

②医療・介護の連携推進支援

- ・南区在宅医療相談室の事例検討会にファシリテーターとして参加し、ケアマネジャーと医療関係者とのネットワーク構築の取組を進めた。
- ・エリア内の居宅介護支援事業所および医療機関、調剤薬局を適宜訪問し、地域包括支援センターでの事業内容について周知を行なった。
- ・介護・医療関係者等多職種連の推進を目指した「南区在宅療養支援ネットワーク会」の総会・講演会に事務局として協力した。

③ケアマネジャー支援

- ・支援困難事例や緊急対応等に対し、三職種で連携し同行訪問や適切な助言を行いケアマネジャーの負担軽減や解決に向けた検討を行なった。
- ・エリアの居宅介護支援事業所と共催し、ケアマネジャー向け勉強会「ケアマネホームルーム」を開催し、エリア内のケアマネジャーの資質向上を図った。
- ・区と南区8包括共催で新任ケアマネジャー実習を開催し、行政サービスの基礎知識、施設見学、虐待防止研修等の学習を行なった。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・個別版地域ケア会議を2回、包括版地域ケア会議を2回開催。ケアマネジャーや訪問介護員など介護従事者、民生委員や老人会の役員など地域関係者、スーパーや宅配事業者など民間事業者により多角的にケースを検討し、新たな情報の収集や課題抽出が行えた。
- ・個別版地域ケア会議、包括版地域ケア会議を通して新たな課題の抽出が行えたため、H31.2の包括版地域ケア会議にて課題の整理・検討を行った。
- ・包括版地域ケア会議で抽出された広域的な課題に対しては、区版ケア会議での検討を提言した。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・要支援および事業対象者に対するケアマネジメント業務が適切に行われるよう、他職種や区をはじめ関係機関と連携しながら、委託している事業所やケアマネジャーへの支援を行った。
- ・地域活動に参加し、地域ニーズの把握・分析を行い、それを個別の支援へとつなげた。支援に必要なフォーマル及びインフォーマルサービスを把握し、適宜事業所やケアマネジャーへ情報提供を行った。
- ・委託の場合はケアマネジャーと緊密に連携を図り、自立支援に繋がるサービスを検討し行った。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・「お元気で21健診」区版（1回）、包括版（2回）の実施とあわせ、介護予防普及強化事業の講座（17回）を実施。一般高齢者のリスク把握と介護予防プログラムへの参加を推進した。
- ・地域活動に参加し、地域のニーズに合った介護予防事業の把握に繋げるとともに、身近にある町内会館で介護予防講座を7回開催し普及啓発を実施した。
- ・既に立ち上げている介護予防グループが継続した活動を行えるよう支援した。また、元気づくりステーションへスムーズに移行するための支援を行った。既存の元気づくりステーションと今年度移行した所の活動の充実が図れる様に後方支援を継続的に行った。
- ・介護予防事業の取り組みについて、広報誌やホームページを活用し、地域住民に普及啓発を行なった。
- ・地域活動として定着するよう、担い手の発掘、育成、支援を行。また、担い手発掘の場として、講座や講習会を開催した。今年は講座に参加した中、1名が介護予防サポーターになり、ボランティア活動を実施した。ボランティアの育成・支援のため、フォローアップ研修「スリーA」を2回実施した。

4 その他

平成30年度 自主事業報告書

特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター 白朋苑

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ケアマネホーム ルーム	目的：エリアのケアマネジャーに対する資質向上および医療・介護の連携推進。 内容：ケアマネジャー同士の情報交換や学びの場として開催しました。	不定期、1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者サロン 「ほっと一息」	目的：介護者支援 内容：介護者同士が情報交換や勉強会を通して、日頃の思いを話すことで気分転換してもらいました。	毎月第3水曜日、 12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	目的：認知症の人が住みやすい地域づくり。 内容：認知症の正しい理解と認知症とその家族への支援を行なうサポーターの養成を行いました。	不定期、12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
芋煮会	目的：地域住民交流支援と要援護高齢者の把握 内容：エリア内の単身高齢者および要援護高齢者の把握を行なうとともに、地域住民の相互交流・情報交換の場を開催した。	6・11月、2回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサロン 「スモールワールド」	目的：子育て支援。 内容：子どもと保護者の友人作り、情報交換の場の他、講座等を通して子育てに役立つ情報を提供を行いました。	7・8・1月を除く第4火曜日、9回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
脳トレウォーキング	目的：介護予防普及啓発 内容：日常生活に必要な筋力づくりと脳トレを取り入れたウォーキングを通して、いつまでも元気に歩くことができる体づくりを行ないました。	不定期、10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防教室 1. 3モクモク会	目的：身近な地域での介護予防活動の創出。 内容：地域住民に対する介護予防プログラム（認知症予防ゲームや体操、脳トレ）の実践ができるような支援を行いました。	第1・3木曜日、20回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防教室 ونسリー水曜会	目的：身近な地域での介護予防活動の創出。 内容：地域住民に対する介護予防プログラム（認知症予防ゲームや体操、脳トレ）の実践ができるような支援を行いました。	第1・3水曜日、20回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康講座	目的：地域住民の健康増進。 内容：地域住民に対する健康についての普及啓発を行った。老人会からの依頼を受け、「腰痛」、「栄養」、「運動」、「口腔ケア」、「転倒予防」等について講座等を開催しました。	不定期、3箇所合計11回